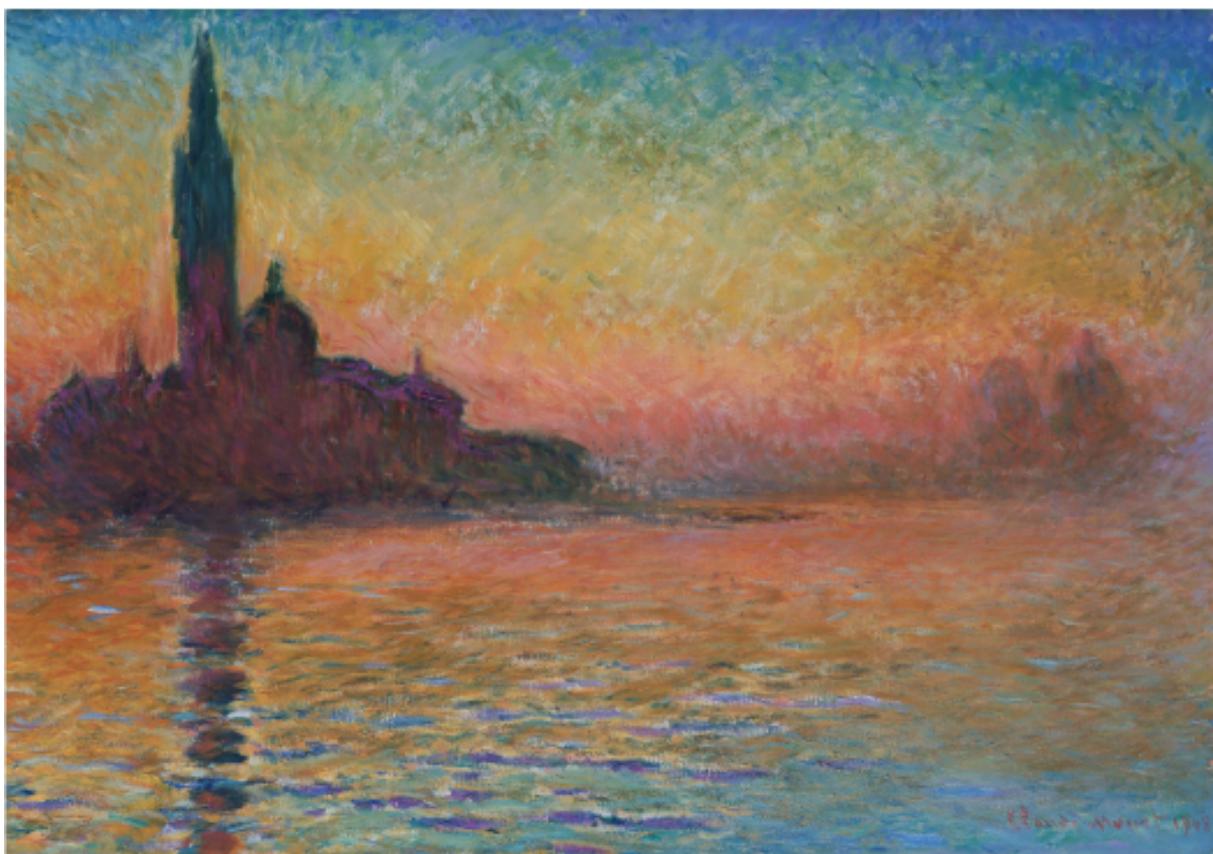


press release

# ターナー からモネへ

英国 ウェールズ国立美術館所蔵

France and Britain: Art for a New Age 1817-1917



クロード・モネ《サン・ジョルジョ・マッジョーレ、黄昏》1908年 ウェールズ国立美術館蔵 © National Museum of Wales

**まもなく開幕！**  
展覧会構成、イベント等、情報を追加しました

**会期** 平成29(2017)年  
4月1日(土)～5月28日(日)  
会期中無休

**開館時間** 9:00～17:00  
※金曜日と4/1～4/9までは20:00まで 開館  
※入館は閉館30分前まで ※4月1日は10:00開場

**料金**

一般	1300円	(1100円)
高・大学生	900円	(700円)
小・中学生	500円	(300円)

※( )内は前売・20名以上の団体料金



- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる～ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

 **広島県立美術館**  
Hiroshima Prefectural Art Museum

## 【開会式について】

次の通り、「英国 ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

日時／平成28年4月1日(土) 午前9時30分～

場所／広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

内容／主催者紹介・挨拶、来賓紹介、協賛社紹介、テープカット、内覧

## 【開催趣旨】

1907年に設立された歴史ある英国ウェールズ国立美術館。同館のコレクションより、19世紀から20世紀初頭にかけて英仏で活躍した画家たちによる70点余りの珠玉の作品を展覧します。

モネは印象派としての作風を確立する数年前、イギリスを代表する画家ターナーの作品に接し、その風景表現に感嘆したといわれます。本展ではターナーをはじめ、ミレーやクールベなど写実主義の画家や、モネら印象派の巨匠、印象派以後の画家の作品等を一堂にご紹介。綿々と続いていく絵画史の流れをたどります。

## 【展覧会の構成】

### 第1章 ロマン主義

ロマン主義は、18世紀末から19世紀前半にかけてヨーロッパで生まれた思想で、個人の感受性や主観を重視しました。その動きは美術だけでなく、文芸・音楽・演劇など様々な芸術分野に及びました。

イギリスでは特に風景画のジャンルでロマン主義運動の成果が見られます。その代表的担い手がターナーとコンスタブルです。ターナーは崇高でロマンティックな風景を描き、コンスタブルは自らの喜びや愛情を滲ませながら身近な自然を澆刺と描き上げました。ロマン主義の精神は、その後カラーをはじめとするバルビゾン派の絵画にも受け継がれます。



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー  
《難破後の朝》

### 第2章 リアリズム

19世紀前半のフランスでは、近代市民社会の成立を背景に、歴史画や寓意画よりも身の回りの現実をあるがままに描くことを重視する「リアリズム」という考え方が現われました。ドーミエ、ミレー、クールベらはその代表的画家で、彼らは対象の姿を理想化せずに描こうとしました。特にクールベは、その徹底した表現でリアリズムの旗手と目されるようになります。

19世紀後半にはイギリスにもその影響が及び、もともとあった風俗画と融合するかたちで、リアリズム的な傾向の作品が展開してきました。



ジャン＝フランソワ・ミレー  
《座る羊飼い》  
1840-50年頃

### 第3章 パリのサロンとロンドンのロイヤル・アカデミー

1863年、フランスではサロン(官展)に落選した作品を集めた「落選展」が開催され、硬直化したアカデミー制度への疑問が表面化しました。アカデミーは、「正統」な美術の殿堂として君臨していましたが、19世紀後半に入るとアカデミーに疑問を持つ各流派が独自に展覧会を組織します。

これに先立つ19世紀前半、イギリス美術も同様の問題に直面していました。アカデミックなロイヤル・アカデミーに対し、ラファエロ以前の素朴な美術を規範とした芸術家集団「ラファエル前派」が登場しましたが、彼らは技術的に未熟で懐古趣味的だという批判を受けます。しかし一方で、バーン＝ジョーンズら後進の画家に大きな影響を残しました。



ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ  
《麗しのロザムンド》  
1861年

### 第4章 印象派

1874年4月、パリのナダール写真館で「画家、彫刻家、版画家等、芸術家の共同出資会社」によるグループ展が開催されます。後に「第1回印象派展」として知られるこの展覧会は、政府主催で開かれていたサロン(官展)への不満から始まりました。公募形式のサロンは審査方法に保守的な側面が強く、モネやシスレー、ルノワールといった画家たちは自由に作品を発表する機会を持つよう考えたのです。彼らは、リアリズムの画家たちが行っていた戸外制作を踏まえ、移ろいゆく光や大気の表現を試みました。

こうしてフランスで興った印象派は、海を渡ってイギリスへもたらされ、イギリス美術界の一つの潮流となりました。



ピエール＝オーギュスト・ルノワール  
《会話》  
1912年

### 第5章 ポスト印象派とその後

1880年頃になると、印象派の表現を踏まえながら多様な表現が生まれました。セザンヌのように印象派への不満をもとに形態表現を模索する画家や、パリの風俗を鋭い諷刺を持って描き続けたトゥールーズ＝ロートレックのような画家が現れます。

20世紀になると絵画の変革は一層推し進められます。1905年、マティスやヴラマンクらは原色の多用と荒々しい筆触、平面的な空間描写を特徴とした作品をサロン・ドートンヌに出品。批評家から「フォーヴ(野獣)」と称された彼らの作品は、「キュビズム」の画家たちと並び、現代まで多くの画家に影響を与え続けています。



アンドレ・ドラン  
《ヴェールの教会》  
1912年

## 【主要作品解説】

ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー

### 《マーゲイトの棧橋》 1835年頃

イングランド南東部サネットにある港町・マーゲイト。ロンドン市民のリゾート地として親しまれていたこの町の風景について、「サネットの空は、ヨーロッパ随一の美しさである」とターナーは述べ、足繁く通いました。本作に描かれている長さ1100フィート(約335メートル)もの木製棧橋は、彼の定宿からも見えていたようです。ターナー本人の作ではないと以前は考えられていましたが、色彩や筆致などの分析により、今日では画家直筆の作品と判明しています。



ジャン＝フランソワ・ミレー

### 《突風》 1871-73年

それまで主題となることが無かった農民の世界を描き留めた画家ミレー。吹き荒ぶ嵐によって、今にもナラの大樹が根元から引き剥がされようとしています。一方、その劇的な風景の右側には、風圧に身をかがめながら、羊の群れを追いかける羊飼いの姿が小さく示されています。こうした構図には、人間の力が及ばない自然の荘厳さに畏敬する、ミレーのロマン主義的な考え方が反映されています。また、急速な産業の発展によって破壊されつつあった伝統的な農村生活の姿を象徴していると考えられます。



ジェームズ・テイソ

### 《別離》 1872年

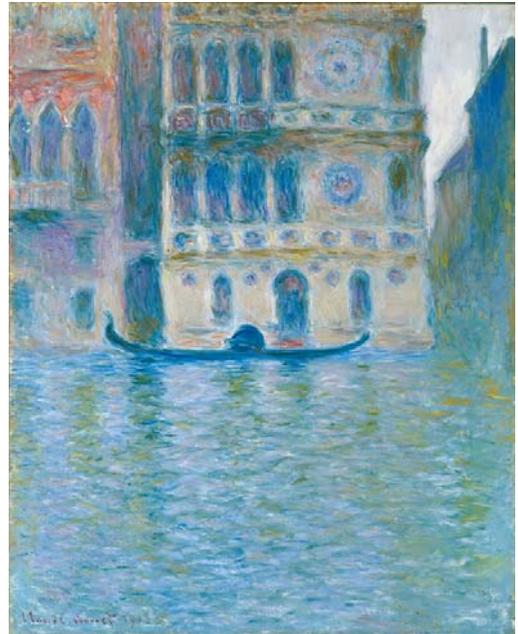
フランス西部の港町ナント出身のテイソは、古い時代の衣装をモデルにまとわせることで、画面に物語性を付与させる手法を得意としていました。若い頃からフランスで高い評価を受けますが、普仏戦争に参加した後は、パリの内紛を避けるためロンドンに移住。ロンドン到着後はすぐに衣装や装身具を買い込み、制作に活かしたといいます。本作も、テムズ川沿いの画家自身のアトリエで描かれた演出的な作品で、女性たちのドレスや家具も、同時代のものではなく1世紀ほど以前の様式を示しています。



## クロード・モネ

### 《パラッツォ・ダリオ》1908年

ヴェネツィア共和国の秘書官邸宅であったパラッツォ・ダリオを上部に描きつつ、画面の下半分をきらめく大運河で埋め尽くす大胆な構図となっています。1908年10月、モネは後妻のアリスと共に、ヴェネツィアへ初めて訪れます。体調不良や視力低下に悩まされていましたが、2ヶ月余りの滞在で精力的に37点もの油彩画に着手しました。「私がおっと若く、大胆なことが出来たときに、ここへ来なかったのは残念だった」とモネは述懐しています。



掲載図版はすべてウェールズ国立美術館蔵

(c) National Museum of Wales

## 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

## 【関連イベント】

### 記念講演会「風景が輝く時：ターナーからモネへ」

日時：4月1日（土）14:00～15:30（開場13:30）

講師：千足伸行（本展監修者・当館館長）

会場：地階講堂 定員：200名（先着順） ※聴講無料、申込不要。

### 記念講演会「技法を読み解く—ターナーからモネへ—」（広島県立美術館友の会共催）

日時：5月13日（土）13:30～15:00（開場13:00）

講師：森 直義（森絵画保存修復工房代表）

会場：地階講堂 定員：200名（先着順） ※聴講無料、申込不要。

## ワークショップ「水辺の風景を描こう」

展覧会場で作品をご覧いただいた後、縮景園に出て、水辺の風景を色鉛筆や水彩絵の具などで描きましょう。  
(画用紙、色鉛筆は当館が用意します。水彩絵の具はご持参ください。)

日時:4月22日(土)13:30~16:00

講師:難波平人(広島大学名誉教授)

集合:1階ロビー 定員:20名 対象:全年齢

※材料費500円、要事前申込(当館へ電話申込)。 ※雨天時は、美術館内で実施。

※完成作品は館内ロビーに展示します(希望者のみ)。

※定員に達したため受付を終了しました。

## 美術講座「光の表現—ターナーからモネへ—」

日時:5月20日(土)13:30~14:30(開場13:00)

講師:山下寿水(当館学芸員)

会場:地階講堂 定員:200名(先着順) ※聴講無料、申込不要。

## ギャラリートーク

日時:4月7日・4月28日・5月12日・5月26日(金) 各日11:00~、18:00~

講師:当館学芸員

会場:3階企画展示室 ※要入館券、申込不要。会場入口でお待ちください。

## ウェブレポーター大募集

日時:4月14日(金)17:00~19:30

受付:3階ロビー 場所:3階企画展示室

対象:インターネットで情報発信をされている一般の方 ※参加者は本展にご招待、申込不要。

## さくらコンサート

日時:4月1日(土) 第1部:12:30~, 第2部18:00~

出演:バイオリン/蔵川瑠美(広島交響楽団 コンサートミストレス)

チェロ/マーティン・スタンツェライト(広島交響楽団 首席チェロ奏者)

ピアノ/野村涼子(フリーピアニスト エリザベト音楽大学卒業)

場所:1階ロビー

演奏曲:エルガー「愛のあいさつ」、マスネ「タイスの瞑想曲」、森山直太郎「さくら(独唱)」ほか

## 【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券のご提示により、100円で縮景園にご入園いただけます。

縮景園共通券 一般1400円 高・大学生1,000円 小・中学生600円

特別夜間開館 縮景園の「夜桜ライトアップ」にあわせて、開館時間を延長します。

4月1日(土)~9日(日)20:00まで ※入場は閉館の30分前まで

## 【県美×現美×ひろ美 相互割引】

「英国 ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ」の会期中、3館で相互割引を実施！下記いずれかの特別展チケット(半券可)を受付にご提示いただくと、本展当日料金より100円割引。詳しくは各館にお問い合わせください。※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

広島市現代美術館 (南区比治山公園1-1/TEL 082-264-1121)

殿敷侃: 逆流の生まれるところ 2017年3月18日～5月21日

ひろしま美術館 (中区基町3-2[中央公園内]/TEL 082-223-2530)

ピアトリクス・ポター<sup>TM</sup> 生誕150周年ピーターラビット<sup>TM</sup>展 2017年4月15日～6月4日

## 【特別メニュー】

1階Zona ITALIA in Centro(ゾーナ イタリア イン・チェントロ)

特別メニュー「蛍烏賊とアスパラガスのスパゲッティ」では、海中で群れて輝く蛍烏賊、鮮やかな光が差し込んだかのようなアスパラガスをモネが得意とした光の表現になぞられてパスタにしました。また、農業・畜産が主な産業であるウェールズにちなんで、豊かな自然の恵みを表現した「ハチミツとレモンのタルト」もケーキセットとして提供します。



## 【開催概要】

リードタイトル: 英国ウェールズ国立美術館所蔵

メインタイトル: ターナーからモネへ

展覧会英語名: France and Britain: Art for a New Age 1817-1917

料金: 一般 1300(1100)円 高・大学生900(700)円 小・中学生500(300)円

※( )内は前売り・20名以上の団体料金

・学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所: 広島県立美術館、セブン・イレブン(セブンチケット <http://7ticket.jp>)、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウンなど。

開催クレジット:

主催 広島県立美術館、イズミテクノ、中国放送、中国新聞社

後援 ブリティッシュ・カウンシル、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー 76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協賛 広島県信用組合

企画協力: ホワイトインターナショナル

問い合わせ先 広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail [iroeuma2@gmail.com](mailto:iroeuma2@gmail.com) (経営管理課 本田仁志) ※3/31までは左記アドレスまでご連絡ください。

担当 学芸課 山下寿水